

平成 24 年 1 月 24 日
第 3 回モニタリング調整会議資料
気象庁気象研究所

気象庁気象研究所における総合モニタリング計画への取組状況

気象庁気象研究所では、総合モニタリング計画に基づいて実施された個別計画のうち、下記のモニタリングに対して参加・協力して放射能分析を行うとともに、分析結果を取りまとめ機関等に報告している。

1. 海域モニタリング計画への対応【継続】

放射能調査研究費により、外洋海域における海水試料採取と放射能分析を実施中である。

これまで（1 月 6 日まで）に採取した試料は、13 航海で採取した各層採水：12 サンプル、表層採水：250 サンプルの計 262 サンプルとなっている。採取した試料については、逐次放射能分析を行い、現在は 92 サンプルの測定値について確定し、残りの試料については前処理および分析を順次進めている。

また、確定した放射能分析結果については、すでに文科省放射能調査研究成果発表会や関連学会等で講演するとともに、論文による発表と気象研究所ホームページでの公開を準備している。

2. 放射性物質のマップ化に関する協力【終了】

総合モニタリング計画における具体的な活動として科学技術戦略推進費で実施された「放射性物質の分布状況等に関する調査研究（実施期間：平成 23 年 6 月～8 月）」に放射能分析の協力機関として協力した。

気象研究所の分析した試料は、計 151 サンプル（河川水・渓流水 80 サンプル、湧水 8 サンプル、土壌水 36 サンプル、地下水等 27 サンプル）であるが、6 月からの試料採取であったため、放射性ヨウ素は壊変して消失しており、放射性セシウムは土壌粒子に吸着して水への移行が小さく、放射能を検出したサンプルは 10 サンプル程度と少なかった。

また、放射能分析の結果は、課題受託機関である筑波大学に提出した。

3. 飲用井戸水モニタリング調査計画への対応【継続】

放射能調査研究費の 2 次補正により、「特定避難推奨地点を含む地区等における飲用井戸水モニタリング調査計画」の一環として、飲用の井戸水等の分析を行い、分析結果を取りまとめ機関（環境省）に報告している。

平成 23 年 12 月までに依頼のあった試料（671 サンプル）について、昨年中に分析を完了し、他機関の分析結果とともに中間とりまとめとして平成 23 年 12 月 26 日に環境省から公開された。